

# 最近の道内経済動向

- 道内景気は、緩やかに持ち直している。
- 先行きは持ち直し基調が続くとみられるものの、物価高の影響が続くことで持ち直しのテンポは緩やかなまま推移すると予想している。

(注) 基調判断は2024.10.24時点で入手可能な主要経済指標を参考とした(8~9月実績が中心)。

## ●個人消費は減速傾向にある

8月の供給側の統計(インバウンド向けを含む、商業動態統計など)をみると、百貨店・スーパー(前年比+3.1%)は増加が続く一方、コンビニエンスストア(同▲4.2%)の販売額は2ヵ月連続で減少した。新車販売台数(軽含む乗用車、同▲6.4%)は、2ヵ月ぶりに減少した。需要側の統計では、家計の消費支出額(8月の家計調査を基に算定)が同▲0.7%と減少した。総じてみると、個人消費は減速傾向にある。

## ●観光は持ち直し基調にある

道内への外国人入国者数(9月:12.9万人)は前年比+37.2%と持ち直している。また、来道者数(8月:147.8万人、国内交通機関経由)は同+1.6%と、2ヵ月ぶりに前年を上回った。観光は、外国人入国者数・来道者数ともに持ち直し基調にある。

(注) 外国人入国者数とは、道内で入国手続きした外国人客数。来道者数とは、国内路線(航空、JR、フェリー)利用による旅客数(国内客と道外で入国手続きした外国人客)を指す。

## ●住宅建築は減少傾向にある、設備投資は持ち直しの動きがみられる、公共工事は緩やかに持ち直している

新設住宅着工戸数(8月:2,289戸)は前年比▲14.2%と2ヵ月ぶりに減少した。主要な利用関係別にみると、持家(同▲19.1%)、貸家(同▲11.1%)、分譲住宅(同▲38.0%)すべてで前年割れ。分譲住宅の内訳では、マンション(全減)、戸建て(同▲14.0%)ともに減少した。

日銀札幌支店が10月1日に公表した企業短期経済観測調査(北海道)の設備投資計画[ソフトウェア・研究開発を含む設備投資額(除く土地投資額)]をみると、24年度の全産業は前年比+19.9%、製造業は同+30.6%、非製造業は同+14.0%と、いずれも高めの計画となっている。

公共工事出来高(8月:1,962.0億円)は前年比+12.0%と7ヵ月連続で増加した。公共工事の契約ベースである公共工事請負金額(9月:484.6億円)は同▲9.4%と2ヵ月ぶりに減少した。

## ●生産は一進一退の動きとなっている

鉱工業生産(8月)は前月比▲1.5%と3ヵ月連続で低下した。主要施設の定期保全工事の実施を受けて、化学・石油石炭製品(同▲0.6%)が低下した。

## ●輸出は持ち直しの兆しがみられる

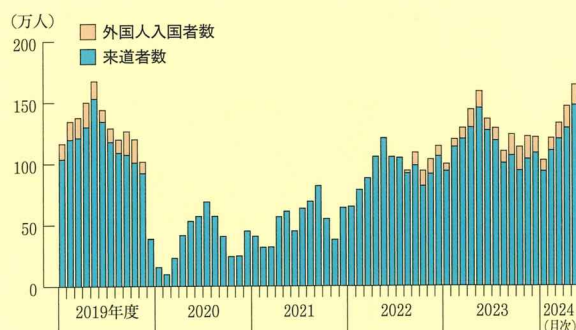
通関輸出額(9月:348.8億円、速報値)は、前年比+24.7%と4ヵ月連続で増加した。「鉄鋼」(同▲29.8%)などが減少した一方、東南アジア向けを中心に「魚介類及び同調整品」(同+72.0%)のほか、「一般機械」(同+14.9%)などが増加した。

## ●雇用情勢は緩やかに持ち直している

8月の有効求人倍率(原数値、パート含む常用)は0.94倍(前年差▲0.07ポイント)となった。一方、8月末時点の来春の新規高等学校卒業生の求人倍率は2.97倍(同▲0.14ポイント)と、高水準で推移している。総じてみると、雇用情勢は緩やかに持ち直している。

### 道内の観光入込客数の推移

道内の観光入込客数(外国人入国者数+来道者数)をみると、8月は164.3万人と、コロナ前の19年比▲1.9%の水準まで迫った。内訳をみると、外国人入国者数は16.5万人の同+15.5%と19年を上回ったものの、来道者数が147.8万人の同▲3.5%と同年をやや下回った。今後、観光入込客数のコロナ前水準回復に向けては、来道者数に占める割合が大きい国内客の増加が欠かせないだろう。



(注) 外国人入国者数とは、道内で入国手続きした外国人客数。来道者数とは、国内路線(航空、JR、フェリー)利用による旅客数(国内客と道外で入国手続きした外国人客)を指す。  
(出所) 北海道観光振興機構「来道者調査」、法務省「出入国管理統計」を基に道銀地域総合研究所作成